

(別紙2) 4.5 システム機能要件表

(1) 基本的な仕様

必須仕様項目	
ア	運用管理や操作が容易であり、クライアント側はシステムの動作においてOS標準のブラウザだけで動作するデータベースや検索エンジンを採用すること。
イ	各機能はブラウザのGUIを用いることで容易に操作できること。
ウ	複数ウィンドウを同時に起動して、業務が行えること。
エ	管理者と利用職員との権限設定が発注者により設定可能なこと。また、利用職員単位に使用権限が管理者により設定できること。
オ	本システムを利用する際は、ユーザーIDとパスワードによる認証を行うこと。なお、パスワードポリシーは本県の情報セキュリティポリシー要件を満たすこと。(10文字以上、数字、英字、記号を含む)
カ	複数の機関のデータを登録でき、ユーザーIDに紐づくグループによる各種データアクセス制御(参照(検索)、更新、削除、ダウンロードなど)を個別に管理できる仕組みとすること。
キ	コード情報(プルダウン選択肢の内容等)の追加などは発注者(管理者)でも簡単にできること。
ク	操作エラーなどの場合に、アラーム音やコメント等が表示できること。なお、音の有無や音量については職員による変更が可能であること。
ケ	目録データやデジタルコンテンツの登録・追加が、特別なコンピュータの知識がなくても容易にできること。
コ	IDとパスワードによる認証機能を使用する場合や通信内容の暗号化を必要とする場合は、TLS1.2以上を使用すること。

仕様項目	
ア	パッケージシステムの機能のレベルアップ(バージョンアップ)に対応すること。
イ	日付項目は手入力以外にカレンダーを表示した入力もできること。
ウ	カーソル位置は色分けを行い、画面上のどこにあるのか把握できるようにすること。
エ	統計などのシステムの日次処理における障害が発生した場合、利用職員が該当箇所を分かる術があること。
オ	操作方法が不明な場合に参照できるマニュアルとヘルプファイルがあること。利用者用画面にも、操作説明の画面があること。
カ	システムで提供される検索機能は、任意一致で検索できること。
キ	基本的な要件に関する魅力的な提案があれば記載すること。

(2) 目録データ管理

必須仕様項目	
ア	入力用フォーマットは、基本パターンその他、資料の種別に応じて任意に項目を設定できること。
イ	目録データ項目は、システム稼働後も管理者権限の職員にて容易に追加、修正、削除できること。
ウ	入力必須項目をわかりやすく表示すること。
エ	初期値の設定ができること。
オ	目録データを個別及び一括で登録、編集、削除、出力する機能を設けること。
カ	非公開のデータとウェブで一般公開するデータ、施設内でのみ公開するデータを制御できること。
キ	階層検索を可能とするための登録および管理が可能で、少なくとも10階層以上扱えること。
ク	逐次刊行物の登録および管理が可能で、タイトル情報に巻号情報が紐づく方式とすること。
ケ	多言語(UTF-8)が扱えるシステムであること。
コ	発見場所や史跡位置などの位置情報管理を行うこと。緯度・経度は手入力以外に国土地理院の電子国土地図などの地図システムを表示し、視覚的な位置情報入力ができること。
サ	固定URLなどにより、登録データの相互リンク機能を設けること。
シ	システム管理者は、各種区分(コード情報、マスター辞書、異体字辞書など)のメンテナンス(内容の修正、追加、削除)ができること。

仕様項目	
ア	目録データ項目は、以下のような文字種による制御ができること。 <ul style="list-style-type: none"> ・文字型 ・文字型(改行あり) ・半角文字のみ ・数値のみ ・日付 ・緯度経度 ・コード選択式 ・自動採番
イ	外字は指定せず、代替可能な UCS 規格内の文字を用いる。

ウ	日付はカレンダーアイコンによるカレンダー参照入力ができること。
エ	日付が入力できる項目は、以下のようなデータが登録できること。 ・西暦・和暦 ・年・月・日のいずれかもしくは全てが不明なデータ ・閏月 ・太陰太陽暦への対応
オ	緯度経度が入力できる項目は、以下のようなデータも登録できること。また、日本測地系のデータは世界測地系に変換できること。 ・60進表記 ・10進表記 ・日本測地系データ ・世界測地系データ
カ	コード選択式項目は、1つの選択以外に、複数選択が可能なこと。
キ	自動採番項目は、資料番号等について、データ登録時に固定値＋自動的に番号が付与される項目とすること。
ク	異体字とみなして検索する字体リストを提供すること。
ケ	基本的な要件に関する魅力的な提案があれば記載すること。

(3) デジタルコンテンツの登録・管理

必須仕様項目	
ア	デジタルコンテンツとその付随情報(ファイル名、ファイル形式、ファイルサイズ、タイトル、著作権情報、撮影・作成年、原本保管場所等)を個別及び一括で登録、編集、削除する機能を設ける。
イ	デジタルコンテンツ付随情報と目録データを関連づけ、容易に管理できること。
ウ	登録・管理できる静止画像として、JPEG, BMP, TIFF, PNG, PDFなどのファイルが扱えること。
エ	公開用の動画データの形式として、MP4, MPEGなどのファイルが扱えること。
オ	公開用の音声データの形式として、MP3, waveなどのファイルが扱えること。
カ	画像を登録した際に、電子透かし(あらかじめ決められた文字列を見た目にはわからない形で画像に埋め込む技術)が付与できること。(ISO規格 Extensible Metadata Platform (XMP)をメタデータに埋め込む方式) また、電子透かしの検出を行うこともできること。
キ	3Dデータも扱えること。

仕様項目	
ア	令和7年度末の想定データ件数(別紙3参照)のファイルが登録できるシステムであること。
イ	マウス操作で画面上の作品の一部分を範囲指定し、状態(汚損・亀裂の発生等)を登録・管理できること。
ウ	JPEG形式、TIFF形式等の画像を登録した際には、ブラウザで最適に表示できるサムネイル画像が自動作成されること。
エ	画像を登録した際に、画像にクレジット文字(クレジット画像)を合成できること。
オ	JPEG形式の画像については、ファイルが持つExif情報から解像度、撮影日、緯度経度情報などをメタデータとして自動的に取り込めること。
カ	デジタルコンテンツの登録・管理に関する魅力的な提案があれば記載すること。

(4) 資料の貸出・状態・展示・修復履歴機能

必須仕様項目	
ア	資料の貸出・状態・展示・修復履歴管理機能があること。
イ	資料を他施設に貸し出したときの情報を登録、管理し、検索、閲覧、修正、削除等が行えること。また貸出予定も管理できること。
ウ	1回の貸出で複数の資料を貸し出す場合があることから、1件の貸出情報に対して複数の資料情報が関連付けできること。
エ	資料を展示したときの情報を登録、管理し、検索、閲覧、修正、削除等が行えること。また、展示予定も管理できること。
オ	1回の展示替えで複数の資料を入れ替える場合があることから、1件の展示情報に対して複数の資料情報が関連付けできること。
カ	資料を修復するときの情報を登録、管理し、検索、閲覧、修正、削除等が行えること。また、修復予定も管理できること。
キ	資料の「貸出」「展示」「修復」において、資料の重複期間利用が発生しないように、各資料単位で重複期間チェックが行えること。
ク	資料の「貸出」「展示」「修復」では、各資料単位で、「仮予約期間」「予約期間」が把握でき、現在、「仮予約中」「予約中」「貸出・展示中・修復中」「返却・入庫済」であるかが把握できる仕組みであ

ケ	貸出修復情報単位に更新履歴が管理できること。各履歴日コメントが入力できること。
コ	データの修正登録時は版数管理を可能とし、更新前の情報の参照と復元が可能なこと。
サ	展示・貸出・修復情報は1件ずつデータ内容が修正できること。
シ	展示・貸出・修復情報は削除可能なこと。削除は、1件ずつの削除のほか、一括削除もできること。
ス	展示・貸出・修復情報は全ての情報が検索可能なこと。

仕様項目	
ア	フィルムなどの貸し出しも管理できること。
イ	資料の貸与・状態・展示・出品・修復履歴機能に関する魅力的な提案があれば記載すること。

(5) 業務端末検索機能

必須仕様項目	
ア	高速検索エンジンを用いた、ストレスを感じない高速な検索が可能なこと。(4. 6(2)のパフォーマンス要件参照)
イ	入力した文字列に対する「前方一致」、「部分一致」、「後方一致」、「完全一致」の検索が可能なこと。
ウ	任意の項目を対象とした、キーワード及び条件指定による検索を可能とすること。
エ	項目を限定せずに、キーワードによる全文検索を可能とすること。
オ	複数の条件及びキーワードの組み合わせによる検索を可能とすること。その際、入力値間の「AND検索」、「OR検索」が可能なこと。
カ	アルファベットの大文字・小文字、全角・半角、数字や記号の全角・半角を意識しないで検索できること。
キ	年代や資料番号などの数値項目は、範囲検索が可能なこと。
ク	検索実行時は旧字や古字、別体などの異体字について、字体を意識することなく検索できるようにす
ケ	ユーザー単位で、よく使う検索条件が保存でき、再利用が可能なこと。
コ	検索した結果には、指定された項目によるソートを可能とすること。ソート条件は、3項目以上の指定が可能でありそれぞれ昇順、降順の指定が可能なこと。

仕様項目	
ア	その文字列を含まない「NOT検索」が可能なこと。
イ	件名典拠(シソーラス)による検索ができること。
ウ	検索結果一覧で検索キーワードをハイライト表示できること。
エ	検索結果リストの出力がCSVなどで行えること。
オ	検索条件を入力しないで検索するなどの方法で、全件表示が可能なこと。
カ	検索機能に関する魅力的な提案があれば記載すること。

(6) ダウンロード・インポート機能

必須仕様項目	
ア	システムに登録されている全データもしくは、任意のデータのみダウンロードが可能なこと。
イ	一括でシステムに登録・更新(インポート)ができること。
ウ	ダウンロード、インポートのフォーマットとして、CSV形式(カンマ区切り)、TSV形式(タブ区切り)のいずれかが指定できること。
エ	資料情報に関連付けられている画像等ファイルもダウンロード、インポートができること。
オ	インポートの際は、不正なデータが登録されないようにフォーマットチェックを行うこと。エラーがあった際は、該当箇所をわかりやすく示せること。

仕様項目	
ア	ダウンロード、インポートのフォーマットとして、Excel形式(xls,xlsx)が指定できること。
イ	検索時にソート指定をした場合は、ソートした状態でダウンロードできること。
ウ	ダウンロード・インポート機能に関する魅力的な提案があれば記載すること。

(7) コード、マスター管理機能

必須仕様項目	
ア	選択式の項目で扱うコード情報の管理ができ、職員による値の追加、修正、削除ができること。
イ	受入先や貸出先等の住所録の管理ができ、データ登録時に利用できること。
ウ	住所情報については、郵便番号と住所の相互変換ができること。

仕様項目	
ア	コード、マスター管理機能に関する魅力的な提案があれば記載すること。

(8) 図書館特記事項

必須仕様項目	
ア	鳥取県立図書館の書誌データ(メタデータ)を登録することで、図書館の書誌情報と本システムのデジタルアーカイブデータが統合検索ができること。

仕様項目	
ア	図書館特記事項に関する魅力的な提案があれば記載すること。

(9) 公文書館特記事項

必須仕様項目	
ア	公文書館では、特定歴史公文書等として簿冊および件名の階層構造で管理しており、これらの情報が管理できること。
イ	公文書館では、特定歴史公文書等の他に、行政資料、統計刊行物、マイクロフィルム、県史編纂収集資料等を扱っている。これらの情報も管理できること。
ウ	資料群やコレクションなどの情報も管理できること。

仕様項目	
ア	公文書館特記事項に関する魅力的な提案があれば記載すること。

(10) 博物館特記事項

必須仕様項目	
ア	人文系は、資料群やコレクションなどの情報も管理できること。
イ	博物館で管理している図書情報も管理できること。

仕様項目	
ア	生物分野は、学名に関する情報および、門、綱、目、科などの高次分類群の階層情報のマスター管理ができること。
イ	生物・地学分野は採集地に関する情報が管理できること。採集地は、緯度経度情報も管理でき、緯度経度情報を用いて、等高線が描かれている国土地理院地図が利用できること。
ウ	緯度経度情報は、日本測地系と世界測地系のデータが存在しており、日本測地系のデータは世界測地系に変換できること。
エ	博物館特記事項に関する魅力的な提案があれば記載すること。

(11) 美術資料特記事項

必須仕様項目	
ア	美術館では作家に関する情報(作家名、生没年、略歴等)を作品情報とは別で管理でき、作品情報ならびに図書情報と紐づけできること。
イ	作品情報は、作品に関する基本情報以外に、作品の来歴や文献情報、作品解説なども管理できること。
ウ	博物館美術振興課(美術館開館後は美術館)で管理している図書情報も管理できること。また図書資料のバーコード、分類記号等の出力ができること。
エ	個別帳票として、作品カード帳票、展示リスト、資料ラベル等の出力が可能なこと。
オ	作品情報の中にある評価額や購入額などの項目は、ボランティアや補助員等には表示・閲覧できないようにすること。
カ	作品のバーコード管理ができること

仕様項目	
ア	所蔵作品に加え、寄託作品も管理できること。(寄託期間や寄託者名など)
イ	作品情報において展覧会出品歴の更新が容易であること。
ウ	美術資料特記事項に関する魅力的な提案があれば記載すること。

(12) 埋蔵文化財センター特記事項

必須仕様項目	
ア	埋蔵文化財センターでは、遺跡情報 - 調査情報 - 遺物の3階層でデータ管理をしている。それぞれの情報、およびリンク関係が管理できること。
イ	埋蔵文化財センターでは、大量の写真を保有しており、これらの情報が管理できること。
ウ	埋蔵文化財センターの発掘調査報告書も管理できること。
エ	遺物については、遺物の写真の他に、実測図も管理できること。
オ	各遺跡情報、遺物情報などの該当報告書から、奈良文化財研究所の全国遺跡報告総覧の各調査報告書へ遷移できること。

仕様項目	
ア	遺跡情報や調査情報については、インターネット地図システム（鳥取WEBマップ、Google Maps、国土地理院地図等）と連携できること。
イ	埋蔵文化財センター特記事項に関する魅力的な提案があれば記載すること。

(13)利用者向け公開機能(全般)

必須仕様項目	
ア	アクセシビリティおよびユーザビリティに考慮し、ユニバーサルデザインに基づいた、わかりやすく見やすい画面とすること。(JIS X 8341-3:2016 レベルAA以上)
イ	ヘッダーやフッター、色合いなどについては、本県および本システムのイメージに合わせて変更すること。
ウ	スマートフォンなどに対応した機能を持ち、閲覧する場合は適切なレイアウトに自動的に表示変更されるレスポンシブデザインに対応していること。
エ	画像データの閲覧方式は、利用者が特別なソフトウェアを必要としない方式とする。画像をクリックするとデジタルビューワーが表示されること。
オ	多言語(UTF-8)が扱えるシステムであること。
カ	利用者の操作説明のためのヘルプ画面を準備すること。
キ	職員によるコンテンツの作成更新の容易性を高め、簡易な操作でメンテナンスを可能とし、CMS等を導入し、トップページやお知らせページ、特集ページ等の作成ができること。

仕様項目	
ア	トップ画面で、ピックアップ表示、簡易検索、詳細検索、カテゴリ検索、地図検索が選択できること。
イ	ピックアップ表示ではお勧め資料として登録した資料をトップ画面に毎回ランダムまたは固定で表示できること。お勧め資料の画像をクリックすると詳細画面に遷移すること。
ウ	公文書は、簿冊、件名の階層構造を持っている。簿冊から件名の一覧を表示し、件名の詳細画面に遷移できること。また件名から簿冊情報に遷移できること。
エ	各画面の遷移履歴を表すパンくずリストが表示でき、クリックすることで指定した画面に遷移できること。
オ	資料管理機能の展示機能を利用して、Web上でミニ企画展が行えるような機能を有すること。
カ	資料管理機能の展示機能と連携し、現在、常設展示している作品の一覧、閲覧ができること。
キ	利用者向け公開機能に関する魅力的な提案があれば記載すること。

(14)利用者向け検索機能

必須仕様項目	
ア	高速検索エンジンを用いた、ストレスを感じない高速な検索が可能なこと。(4. 6(2)のパフォーマンス要件参照)
イ	「公開データ」および「公開項目」のみ検索・閲覧できるよう制御できること。
ウ	複数の機関のデータを一括で検索・表示することができること。
エ	簡易検索、詳細検索、カテゴリ検索、地図検索が選択できること。
オ	簡易検索では、全資料を対象に、項目を限定せずにフリーワードによる全文検索を可能とすること。また、共通項目(タイトルや場所、年代等)による検索を可能とすること。
カ	詳細検索では、資料種別(別紙3-1参照)及び対象施設を指定して、任意の項目を対象とした、キーワード及び条件指定による検索を可能とすること。また、複数の条件及びキーワードの組み合わせによる検索を可能とすること。その際、入力値間の「AND検索」、「OR検索」が可能なこと。
キ	カテゴリ検索では、指定した階層(資料種別・分野)に属するデータの一覧表示を可能とすること。
ク	地図検索では、県内の簡易地図を表示し、地域をクリックすることで検索を可能とすること。
ケ	検索実行時は旧字や古字、別体などの異体字について、字体を意識することなく検索できるようにす
コ	検索実行時は、アルファベットの大文字・小文字、全角・半角、数字や記号の全角・半角を意識しない
シ	検索できること。
サ	入力した文字列に対する「前方一致」、「部分一致」、「後方一致」、「完全一致」の検索が可能なこと。
シ	本システムの検索結果詳細画面は固定URLとし、他サイトから容易にリンクを貼ることができるように
	すること。

仕様項目	
ア	ファセット検索機能を設けること。
イ	利用者向け検索機能に関する魅力的な提案があれば記載すること。

(15)利用者向け検索機能(検索結果一覧画面)

必須仕様項目	
ア	ヒットしたデータ件数を表示できること。
イ	一覧表示件数の設定を変更できること。

ウ	検索結果一覧に表示するデータの並び順を選択し切り替えることができること。
エ	検索条件を追加することにより、絞り込み検索ができること。
オ	メタデータ+サムネイル画像の一覧の表示が可能なこと。
カ	各項目またはサムネイル画像をクリックすると詳細画面に遷移すること。

仕様項目	
ア	検索条件の表示が可能なこと。
イ	検索結果一覧で検索キーワードをハイライト表示できること。
ウ	検索結果一覧画面に関する魅力的な提案があれば記載すること。

(16) 検索結果詳細画面(デジタル資料閲覧機能)

必須仕様項目	
ア	詳細画面では、サムネイル画像と共に、該当資料の詳細な情報が閲覧できること。
イ	1つの資料に、複数の画像がある場合は、全ての画像の閲覧ができること。
ウ	資料に付随する静止画像、動画、音声、PDF等のメディア情報も閲覧できること。
エ	目録データに対応するデジタルコンテンツが存在する場合には、サムネイル及びデジタルコンテンツへのリンクを表示し、当該リンクからデジタルコンテンツを閲覧可能とする。
オ	画像ビューアは、直観的な操作で拡大、縮小、回転、移動、ページ送り等が行えるものとする。
カ	サイズの大きな画像は、表示しているエリアのみを配信するような高精細画像をスムーズに表示でき
キ	立体物の3D画像を、360度どこからでも見えるように回転して表示できること。
ク	図書形態の資料は、ページめくりによる閲覧や全ページのサムネイル一覧表示が可能なこと。
ケ	システムに登録された翻刻文の表示および翻刻文の検索ができること。
コ	システムに登録された動画・音声の公開ができること。
サ	クリエイティブコモンズのライセンスマークなど、利用条件を容易に明示することができること。
シ	表示されたデジタルデータを印刷できる機能があること。その際、印刷できるデータとできないデータを制御できること。
ス	検索した結果(目録データ)は、全項目もしくは任意の項目に対して、CSV形式でダウンロードできるこ
セ	画像等のデジタルデータのファイルがダウンロードできること。その際、ダウンロードできるデータとできないデータを制御できること。

仕様項目	
ア	緯度経度情報を持つデータについては、インターネット地図(鳥取WEBマップ、Google Maps、国土地理院地図等)と連携し、該当箇所を表示できること。
イ	利用者にコピーライトや二次利用規約等に同意を求める画面の表示が行えること。
ウ	検索結果詳細画面(デジタル資料閲覧機能)に関する魅力的な提案があれば記載すること。

(17) 利用者端末画面

必須仕様項目	
ア	各館(図書館、博物館、公文書館、埋蔵文化財センター)に、来館者がタッチパネルで操作できる端末を設置し、(14)～(16)記載の仕様内容と同等の検索、閲覧を可能とすること。

仕様項目	
ア	タッチパネル操作のための、操作しやすい専用の画面を用意すること。
イ	利用者端末は検索、閲覧だけを可能にし、利用者による端末の不正操作を防止するための仕組みを導入すること。
ウ	利用者端末画面に関する魅力的な提案があれば記載すること。

(18) 外部連携機能

必須仕様項目	
ア	ダブリンコアの要素に準じた、横断検索のために必要な目録データの項目を設定できること。
イ	本システムの検索結果詳細画面は固定URLとし、他サイトから容易にリンクを貼ることができるようにすること。
ウ	将来的に、画像を含むデータを外部(別の事業者)に提供することが可能なこと。
エ	国際的な画像の相互運用性に考慮した配信方式(例:IIIF)に対応すること。
オ	「国会図書館サーチ」や「ジャパンサーチ」「国立公文書館デジタルアーカイブ横断検索」「奈良文化財研究所」との連携を考慮した機能を設けること。

仕様項目	
ア	OAI-PMHによる目録データの一括提供機能などに対応すること。

イ	SRU/SRW または OpenSearch による検索に対応すること。
ウ	外部連携機能に関する魅力的な提案があれば記載すること。

(19) 帳票関連

必須仕様項目	
ア	Web アクセス状況等の統計情報を作成し、利用状況の把握が可能なこと。統計データについては年度を越え蓄積することができること。
イ	条件を指定することで、必要とするデータを任意に抽出して、Excelにより帳票を容易に編集できること。その際、印刷だけでなく、画面確認やファイル出力も選択できること。また、作成した帳票の条件や書式を登録でき、次回以降は条件を修正するだけで同じ様式で出力できること。
ウ	事前に指定した印刷フォーマットでバーコード出力機能があること。(図書や資料に貼付するバーコード)
エ	必要項目を選択して、事前に指定した印刷フォーマットで印刷できること。(画像データ含む)

仕様項目	
ア	システムで作成できる定型の帳票について記載すること。
イ	帳票関連に関する魅力的な提案があれば記載すること。

(20) 人物情報データベース

必須仕様項目	
ア	現在鳥取県立図書館システムで構築している「郷土人物文献データベース」(鳥取県に関連のある人物の情報(約15,000件)と人物についてかかれた文献(約38,000件)の情報を提供)を維持し、Web上で公開すること。
イ	検索機能として、「人物名」「市町村名」「分類」などでの検索や相互の複合検索が行え、「フリーワード」検索では、人物情報で表示される全ての項目を検索対象とすること。
ウ	検索結果一覧には、「別名」「生没年」「出身地」「活動分野及び実績」などの情報も表示されること。
エ	詳細画面では、「人物名」「人物名よみ」「別名」「生没年」「出身地」「ゆかりの地」「活動分野及び実績」「参考資料」「著作権の有無」などの情報が表示されること。
オ	詳細画面には、「関連文献・資料」のリンクが表示され、リンク先では鳥取県立図書館のweb-opacの資料詳細画面にリンクされること。(固定URLによるリンク)
カ	人物検索では、カナ先頭1文字の選択で該当人物の一覧表示ができること。

仕様項目	
ア	検索画面のデザインは、発注者と協議の上作成すること。
イ	関連書籍名を作成するときは、タイトルと巻次を合わせた文字列にすること。
ウ	人物情報データベースに関する魅力的な提案があれば記載すること。